

## 1. 文化財と歴史

歴史の里、びわの里、桜島の降灰の里「松ヶ崎」の文化財と歴史を紹介します。西の牛根大橋から国道 220 号に沿って東の太崎観音へと解説します。前ページの松ヶ崎の簡単な地図とあわせてご覧ください。

○【造船所跡】…島津斉彬が幕府の禁を犯して対岸の桜島の瀬戸集落と共に日本初の西洋式軍艦を作った隠れ造船所跡。安政二年（1855）、万年丸と鳳瑞丸が造られ藩の御用船となりました。

○山手へ約 100m の岩崖に【磨崖仏】が彫られてあります。その昔、地主の女房殿の髪が抜け落ちて何かのたたりじゃないかと占い師に拝んで貰いました。すると、仏さんが埋まっているので掘り起こして供養するよういわれ、掘り起こして献花したところ女房殿の髪の毛が元通りに生えてきたという言い伝えがあります。



▲磨崖仏

○【陵】…陵とは天皇・皇后を葬った場所のことです。安徳天皇が漂着され、その後わずか 13 歳で亡くなられたので、ここに葬ったとする説もあります。



▲陵

○【笠仏首塚（六地藏）】…天正二年（1574）、入船城に立籠っていた肝付氏の支族である安楽備前守と島津義久の戦いで、戦死者の首が八百八竿につるされ、それを供養するために立てられた供養塔とされています。



▲笠仏首塚



▲安楽備前守の墓

○【見張り番所】…宮崎川から 50m 程度の駅よりの所にあり、また、近くには隠れ造船所への検問所もあり、その下の海岸が【射場下】と呼ばれていました。

○【入船城】…松ヶ崎城や牛根城とも呼ばれています。築城は不明ですが、南北朝の頃、牛根兵衛五郎道綱が居城し、その後池袋氏や本田薫親が居城としていました。後に、肝付兼続が安楽備前守に守らせましたが、島津氏に敗れ、島津の地頭が治めるようになりました。また、最初は源氏に敗れた平家の落人たちが山城を設け、源氏方の探索に備えたとする説もあります。

○【宮崎小路・中小路・東小路】…平家の落人たちが在りし日の京都を偲び、都大路を慕って姉小路、北小路等から採ったとされています。

○【御門の小路】は入船城への通りで来客やお殿様、重臣の方々をお出迎えする場所「むかえ」と呼び、国道からの入り口当たりの家を【御門】と呼びました。御門小路を上った突き当たりが、【華蔵院東光寺】とあり、入船城築城と同時代ごろに建立されました。御門の小路の突き当たりの左右の道を【馬場通り】といい、乗馬の訓練場所でもありました。